長崎川棚医療センター広報誌

養氣軒

ようきけん

Nagasaki Kawatana Medical Center

vol.85
2021 Summer

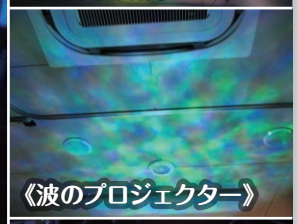
『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

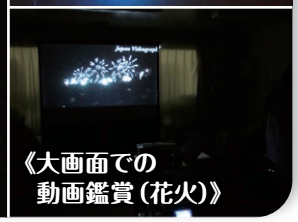
085 | みんなでリラックスタイム

《行灯》

《影絵の投影》


《波のプロジェクター》

《グラスファイバーの光器具》


《大画面での動画鑑賞（花火）》

みんなでリラックスタイム！

スヌーズレンとはオランダ発祥の行動障害などに対する療法で、『クンクンとにおいをかぐ』『ウトウトと居眠りをする』という意味があります。『視覚』『聴覚』などの五感で感じとる感覚の要素とリラックスするという目的があります。最近では障害者への療法だけでなく、一部の企業等でも社員の福利厚生の一環として、リラックスルーム等を設置するところも出てきています。

8病棟での活動は、浴室の脱衣室を使用して行っています。光を使った器具など見つめたり、ステンドグラスのような影絵を天井に投影したりして癒し空間を楽しんでいます。最後には大きなスクリーンに海や星、クラゲの映像等を映して鑑賞します。

参加された方からは、「すごくゆったりした気持ちになれました。良いですね」「また参加したいです」などの感想をいただいております。

いつもと違う異空間を皆さんも体験してみませんか?（主任保育士　小林 聰子）

《オイルタイマー》

Topics【トピックス】

『私の生きがい』

看護師長　酒井 真澄

8病棟にご入院中の患者さんが、一昨年の夏から週に1回1時間から始めた作品作り。

「もっと長時間やりたい」とのご希望があり、長時間車いすに座れる姿勢を何度も検討し、今では週に1～2回、10:00から15:30の間、すべてを忘れて没頭しているこの時が至福の時とのことです。

図案によっては2～3週間から3か月ぐらいかかるものもあるそうです。

「1度にたくさんは作れないけど、きれいに出来上がらないと嫌なのよ」と話されるように、どの作品も糸目の狂いなく、裏側の糸処理まで丁寧にされています。

患者さんの生きがいとなる時間をこれからもスタッフ一同で支えていきたいと思います。

制作風景

作品ギャラリー

Topics【トピックス】

訪問リハビリテーションについて

訪問リハビリテーション担当　理学療法士　深堀 七重

現在『さくらそう』には、長崎川棚医療センターリハビリテーション科で勤務している理学療法士2名、作業療法士1名が登録されており、その内の1名が平日の午後より1日最大3名の利用者さんに対して、1回40分間の訪問リハビリを提供しております。

訪問区域は東彼三町内で、現在8名の方が利用されています。現在コロナ禍ではありますが感染対策を行いながら、40分と限られた時間の中で、その日の体調に合わせてのリハビリを行っています。

『来るとば楽しみにしとったよ！！』と言っていただけるように、明るく楽しくをモットーに利用者さんに笑顔を届けていきます。

Topics【トピックス】

医療機器の説明会について

医療機器管理室長 津田 真実

医療機器管理室は、業務の一つとして、職員向けに医療機器の使用方法の説明会を行います。

先日シリンジポンプの新規導入があり、説明会を行う必要がありましたが、広い会議室に多数集まってもらい説明を行うという従来の説明会形式は、昨今の新型コロナの流行を考えると好ましくありません。

そこで約20回分の説明会のスケジュールを用意し、看護部に参加者を人数が偏らないよう振り分けてもらい少人数で行うことにしました。また、参加できなかった職員については、イントラネットを活用し、使用方法の動画を視聴してもらうなど工夫し、無事説明会を終了させることができました。

医療機器を更新する頃には、同じ機種はすでに廃番、後継機種しかないという状況が当たり前なほど、医療機器はどんどん進歩しています。今後も職員皆で新しい知識を共有するため、感染等に注意し、説明会を実施していきたいと思います。

Topics【トピックス】

心臓リハビリテーションを実施しています

看護師長 蛯原 勇治

3階病棟では心不全を中心とした循環器疾患でご入院された患者さんの治療のひとつとして、昨年より心臓リハビリテーションを開始しています。

心臓リハビリテーションは、低下した心身の機能の維持向上及び再発の予防を目指し、運動療法だけでなく患者さん・ご家族への教育、生活指導を多職種で連携して行っています。

週に1回、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士でカンファレンスを行い、情報の共有と今後の方針についての検討を行っています。また、定期的に医師・看護師は、心臓リハビリテーションについての学習会や検討会を行い知識や技術の向上に努めています。

様々な世代の患者さんやご家族が病気とうまく付き合いながら、その人らしく過ごせるよう支援を行っています。

患者さん・ご家族が少しでも「入院してよかった」と感じていただけるよう取り組みを継続していきたいと思います。

Topics【トピックス】

病院情報の公表について

診療情報管理士 谷口 実奈美

当院では、『病院情報公表』の一環として、病院指標をホームページにて公開しております。

病院指標とは、DPCデータから厚生労働省が定める「病院情報の公表の集計条件」に基づき、医療の質を数値で示し客観的に評価するものです。

項目は7項目あり、この指標の公開により、医療の透明化、質の向上を目的としています。

全ての指標には、集計に対するコメントや当院の特色を掲載しております。

令和2年度集計は、10月に公開予定としておりますので、是非ご覧ください。

Topics【トピックス】

診療科紹介（脳神経内科）

脳神経内科医長 **成田 智子**

当院の脳神経内科は、常勤医師5名のスタッフで診療をしています。常時100名ほどの入院患者さんがいます。外来では神経学的診察に続いてMRI検査、RI検査、髄液検査、電気生理学的検査、筋生検などを行い診断や治療をします。対象となる疾患は、脳卒中や頭痛、めまい症、認知症、てんかんといった一般的な疾患から、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、多発性硬化症や重症筋無力症、ギランバレー症候群などの神経免疫疾患、脳炎や髄膜炎などの感染症・炎症性疾患、およびジストニアなどの不随意運動など、幅広い疾患に対する診療をおこなっています。

発症の急性期から慢性期、その後のリハビリに至るまで、長期的な視点で治療を計画し、個々の患者さんのニーズに合わせて診療を行います。進行期の神経難病患者さんでは多職種からなるチーム医療を提供しており、外来・病棟看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、在宅診療スタッフとの連携を密にして在宅療養を支える体制を整えています。

また、パーキンソン病に対しては長崎県では唯一、脳神経外科と共同して脳深部刺激療法を行っており、植え込み手術からその後の管理まで行っています。

これからも患者さんに寄り添う医療を心がけてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

Topics【トピックス】

部署紹介（臨床検査科）

主任臨床検査技師 **大崎 晴美**

臨床検査科は、臨床検査科長と臨床検査技師9名で構成されています。

当検査室は血液・尿などを検査する検体検査部門、細菌検査部門及び心電図・超音波検査などを行う生理検査部門に大別され、各部門ではスタッフが精度の高い検査結果を迅速に報告することを心掛け、日々業務を行っております。

生理検査室部門では、超音波認定技師の資格を取得した技師が検査を行っております。

また、てんかんの診断治療を行ううえで重要な検査である長期脳波ビデオモニタリング脳波や、心臓リハビリを行ううえで有用な心肺運動負荷試験CPXなど、専門医や他部門と連携しながら専門性の高い検査も行っております。

COVID19　PCR検査も実施しているところですが、一日でも早くコロナ感染症が終息することを願うばかりです。

編集後記

副看護部長 福本 佐百合

オリンピックが終わり、若い選手の活躍が眩しく、見ている側も励みになりました。また、高校野球も始まりましたが、全国を襲った豪雨災害で、高校野球も中断が多く少しでも明るいニュースはないかと思う今日この頃です。長い豪雨であちらこちらと道も寸断され、お盆だというのに帰省も出来ない状況で、ご先祖様の供養もままならいお盆でした。コロナ感染も拡大の一方で、終息の兆しが見当たらない現状ですが、病院全体でコロナ禍に立ち向かい少しでも患者さんが、安心して療養生活が送れるように取り組んでいきたいと思います。